

入選

お父さんたちのえざらい

高岡市立牧野中学校 一年 新開 朱莉

みなさんは「えざらい」というものを知っているだろうか？「えざらい」というのは、私が住んでいる富山県の方言らしい。全国的に使われる一ぱんの名称は、「側溝掃除」「側溝清掃」という。これは、側溝にたまったゴミや泥を取り除いて、水の流れをよくする清掃作業のことだ。

私の地域では、それを年に一回やっている。私がやるのではなく、田んぼを所有している人たちがやる。私のお父さんも参加している。「側溝掃除」というと慣れないので、「えざらい」と書かせてもらう。お父さんは、えざらいが終わって帰ってくるといつもヘトヘトになっている。相当おつかれの様子だ。いつも、帰ってきて、お風呂に入っている。

お父さんの話はここまでにして、これから私が疑問に思ったことを書いていく。私が疑問に思ったことは、「もし、えざらいをやらなかったらどうなるのか」ということ。調べてみると、えざらいをやらなかった場合に起きることは、大きく分けて四つの問題があるらしい。一つめは、「水害のリスク」だ。水路に泥やゴミがたまると排水機能が低下する。大雨が降った際に水があふれ出して、道路のかん水や、最悪の場合はゆか下しん水などを引き起こす原因になる。二つめは、「農業への悪えいきよう」だ。田んぼに水を引くための水路が詰まると、必要な水が届かなくなる。いな作にとつての水の管理は命づなであるため、近りん農家にとつて大きな問題になる。三つめは、「悪しゅうや害虫の発生」だ。たまった泥やゴミがふ敗すると、ひどい悪しゅうを放つようになる。また、害虫がわくなど、衛生環境が悪化して不快な思いをすることになる。四つめもあるが、この問題はえざらいを無断欠席した場合の問題だ。四つめは、「地域コミュニティでのトラブル」である。えざらいは、自治会や町内会の共同作業として行わ

れることが多いため、無断で欠席し続けると、「義務をはたしていない」とみなされ、近所付き合いや地域での人間関係に支ししょうが出る場合がある。

えざらいをやらなかったり、無断欠席をし続けたりした場合の問題だ。

つぎの疑問は、「えざらいをすることで環境にいいことはあるのか」だ。調べてみると、四つのいいことがあるということだ。一つめは、「水質の浄化と悪臭防止」だ。たまった泥を取り除くことで、水中の有機物や汚染物質を除去できる。これを行うことで、水が本来持っている「自浄作用」を助けることができる。二つめは、「住みやすい環境づくり」である。水路の泥をかき出すことで、底に酸素が供給され、び生物や小さな生き物の活動が活発になる。三つめは、「下流の環境保護」だ。水路は最終的に川や海へつながっている。えざらいでゴミを回収することは、下流や海に汚染物質が流れこむのをくいとめる「第一線の環境防衛」としての役割もはたしている。四つめは、「自然景観の保全」だ。富山県などの地域では、山からの天然水を生活などに利用している場所もあり、えざらいは自然のめぐみをじゅん環させる大切な仕組みの一部となっている。

ここまで、えざらいについての疑問を大きく二つに分けて書いた。この疑問を通して提案したいことがある。それは、「えざらいを続けること」だ。簡単に見えるが、お父さんがやっているえざらいには高齢の方が多く、ずっと続けるとなると難しいのだ。だから機械や別の方に手伝ってもらうなど、なんとか続けてほしい。やめると環境に負担がかかり、続けるといいことがあるのだから。